

2013 年度 景観・デザイン委員会 第2回親委員会

議 事 要 旨

日時：2013 年 12 月 14 日（土） 12:30～13:15

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 西 9 号館 4 階 402 会議室

出席者（敬称略）：

＜委員＞天野委員長、深堀委員、五道委員、久保田委員、関委員、斎藤委員、山下委員、佐々木委員、松井委員

＜委員兼幹事＞重山幹事長、水谷幹事、大波幹事、横山幹事、飯田幹事、井上幹事、福島幹事、木村幹事

＜オブザーバー＞デザイン賞選考小委員会：真田主査

議題：

- 1) 委員長挨拶（天野委員長）
- 2) 幹事長挨拶（重山幹事長）
- 3) H26 年度事業計画
- 4) 各小委員会活動報告
 - ・デザイン賞選考小委員会 活動報告
 - ・デザイン賞検討 WG 活動報告
 - ・防災・復興小委員会 活動報告
 - ・研究編集小委員会 活動報告
 - ・D1 編集小委員会 活動報告
- 5) その他活動について
 - ・「土木デザインコンペ実施ガイドライン検討 WG」の新設について
 - ・今後の親委員会活動と予算使用について
 - ・平成 26 年度全国大会共通セッションテーマの応募報告
 - ・共催行事の実施方法について
 - ・土木学会資格試験について
 - ・ワンデーセミナー 地域景観まちづくりの理論と実践を探る について
 - ・IASDR（国際デザイン学会）のブース展示のパネル作成について
 - ・デザイン賞説明文 英訳外注について（ホームページ英語版作成）
 - ・デザイン賞の今後について（デザイン賞選考小委員会、検討 WG 活動報告にて実施）
- 6) 意見交換

資料：

- ・議事次第
- ・資料－1 委員会構成メンバー表
- ・資料－2 H26 年度事業計画

- ・平成 26 年度 事業計画及び予算要求調書
- ・平成 26 年度 行事計画書
- ・平成 26 年度 行事計画収支《予算》書
- ・資料－3 デザイン賞選考小委員会 選考結果
- ・資料－4 デザイン賞検討 WG 活動報告
- ・資料－5 「土木デザインコンペ実施ガイドライン検討 WG」の新設について
- ・資料－6 今後の親委員会活動と予算使用について
- ・資料－7 平成 26 年度全国大会共通セッションテーマの応募報告
- ・資料－8 共催行事の実施方法について
- ・資料－9 ワンデーセミナー地域景観まちづくりの理論と実践を探るについて
- ・資料－10 IASDR（国際デザイン学会）のブース展示のパネル作成について

議事：

1 委員長挨拶

2 幹事長挨拶

3 H26 年度事業計画

- ・横山幹事より、資料－2について報告された。

（天野委員長）デザイン賞の協賛金に限り、オーバーヘッドを 5%に引き下げことが理事会にて決定した。研究発表会の広告費については、他の発表会との兼ね合いもあり変更されなかった。

4 各小委員会活動報告

1) デザイン賞選考小委員会

- ・真田主査より資料－3について報告された。

（真田主査）デザイン賞の改革案が中止となったため、今年度は奨励賞を増やし、当初計画していた新・作品選集の代わりとした。

2) デザイン賞検討 WG

- ・福島幹事より資料－4について報告された。

（重山幹事長）理念は明文化されていなかったのか？

（福島幹事）昨年度にウェブに掲載した文章には、作品群の特性について評価のポイントを追加しているものの、困難な状況の中でデザインを行い、作品を作り出したという観点がなく、応募者のモチベーションに繋がる文章になっていないと考えている。

（重山幹事長）理念の明文化とそれに対応した応募フォーマットを作成し、改めて親委員会で判断する必要がある。明文化された理念に基づくと、過去の審査の結果が変わりうるという点についても議論を行っているのか。

（福島幹事）言語化することでそぎ落とされるものもあるかもしれないが、応募側も審査側も多様化する中で、理念を明文化し共有することが重要だと考えている。理念を見直すという議論も必要なので、過去の受賞作品に照らし合わせると結果が変わることはあり得ると考えている。

(天野委員長) 理念については、選考委員長と委員の考え方によって変わっても良いはずなので、理念に照らしてふさわしくないと議論すること自体がおかしいのではないかと考えている。明文化することも良いが、書いた理念に縛られることは避けるべきなので、堅くしすぎるのも良くないと考えている。親委員会には審査過程を十分に説明し、出てきた意見は受け入れた上で、次年度の参考とすれば良いのではないかと考えている。

多少の欠点がある作品を評価するために奨励賞を作り、公共性の観点から特別賞を作った経緯もあるので、あまり堅くならないようにしていただきたい。

(福島幹事) 形が非常に良くできたものと、形は多少劣るが困難な状況を打開したものを同等に扱えるような方向に繋げていきたい。

(松井委員) デザイン賞に出す側の意見として、賞の理念については中村良夫先生が最初に書かれたものと呼んで応募している。土木事業と同様、デザイン賞も一般の人から見えにくくなってきていることも考慮して明文化の両側面を考えた方が良いのではないかと考えている。

3) 防災復興小委員会

(佐々木委員) 活動を行うことができていない。

4) 研究編集小委員会

・同時刻に委員会が開催されているため、報告はなかった。

5) D1 編集小委員会

(山下委員) 今年は7編の投稿があったが、いずれもD部門であった。A、B部門の投稿を促したい。論文集の運営基盤となる投稿数自体も増やしていきたい。登載決定まで8ヶ月と期間も短いため、若手の業績の受け皿として活用いただきたい。査読については、たとえ返却する場合であっても、指導的なコメントは避け、次につながる建設的なコメントとなるように心がけている。

英文論文集に関しては、全分冊において、まずは世界に発信するという理念に見合ったものを登載することになっており、過去の受賞論文や第一線の研究者の総説といった招待論文を中心としている。D1では、これまでに震災特集として2編を登載した。来年度についても中村良夫先生に招待論文をお願いしている。また来年1月より、D部門の一般投稿の受付も開始されるため、和文に加えてこちらも投稿をお願いしたい。

5. その他の活動について

1) 「土木デザインコンペ実施ガイドライン検討WG」の新設について

・久保田委員より資料-5について報告された。

(久保田委員) WGメンバーはこれから打診を行う。交通費はあまり必要でないと想定している。

(佐々木委員) 過去に景観・デザイン委員会でコンペを実施しようとして頓挫した経緯がある。田村さんが詳しく知っているかもしれない。

(天野委員長) 田中賞の選考委員会と協力して、橋梁のコンペを実施しようとしていた。

(関委員) クライアントの不在、場所がなくなったことが中止の原因だったと記憶している。

(天野委員長) 田中賞側には横浜国立大学の山田先生がいらっしゃった。今回のWGはガイドライン作成が目的なので、資料があれば参考にするという程度で進めていただきたい。

(佐々木委員) 原本は公開されているのか。また分量はどのくらいなのか。

(久保田委員) 英文は公開済みで、訳文はまだ公開していない。分量は多くの図を含めて 60 ページほどである。

2) 今後の親委員会活動と予算使用について

- ・大波幹事より資料－6 について報告された。

3) 平成 26 年度全国大会共通セッションテーマの応募報告

- ・重山幹事長より資料－7 について報告された。

4) 共催行事の実施方法について

- ・横山幹事より資料－8 について報告された。

(横山幹事) これまでの方法を明文化し、改めてマニュアルを作成したものである。

(天野委員長) 人数で予算が決定するため、できる限り共催をお願いしたい。

5) 土木学会資格試験について

(天野委員長) 土木学会認定技術者資格制度に景観分野を加える案については、委員会では採択されなかった。引き続き、事務局を通じて委員会に検討の打診を行い、何としても企画を通したいと考えている。

6) ワンデーセミナー地域景観まちづくりの理論と実践を探るについて

- ・佐々木委員より資料－9 について報告された。

7) IASDR (国際デザイン学会) ブース展示のパネル作成、8) デザイン賞説明文 英訳外注 (ホームページ英語版作成) について

- ・(重山幹事長) 資料－10 を各自確認する旨連絡された。

6 意見交換

(関委員) 研究発表会前のシンポジウムについて、親委員会と小委員会のどちらの企画とするかが曖昧となっている。どちらが実施するのが良いかを考えていただきたい。人員の関係もあり、本来シンポジウムの企画は親委員会で行い、小委員会が支援したいと考えている。来年度の予算については、親委員会分に計上している。

(天野委員長) 基本的には親委員会が企画する方が良い。来年度については、水谷幹事と木村幹事が中心となって企画し、幹事全員でサポートする方法で進めていただきたい。

以 上